

日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局

創立100周年を迎えたボストン日本協会

100TH ANNIVERSARY OF THE JAPAN SOCIETY OF BOSTON 2004-2005

ボストン日本協会

理事長 ピーター・M・グリーリ

いよいよボストン日本協会(Japan Society of Boston, JSB)は創立100周年にあたる新たな年を迎えました。ボストン地域と日本との関わりについては、貴会から刊行されている「日本・ニューイングランド交流の記録」にも幅広く紹介されており、皆様よくご存じのとおりですが、幕末から明治にかけて多くの日本人が当地で学び、近代日本の発展に寄与してきました。

日本ボストン会の会員はじめ、ボストンに関心、ゆかりのある皆様には是非この機会をとらえてボストンを再訪して、現在予定されている下記の各種イベントに参加して下さることを願っております。また、当地で活躍されているご友人等との旧交を温めて、日米両国間のグラスルーツの連携、相互理解をなお一層深めていただきたいと思います。

新年における日本ボストン会会員の皆様のご活躍をお祈りいたします。

記

2004年に開催される記念イベント:

2004年1月

*「Five Friends from Japan 展示」

Children's Museumにおいて、子供達に日本文化を伝える新しい展示がキックオフ。この展示は、その後、米国の主要都市(WDC, SFO, LA, 他)を巡回する。

同1月(続き)

*ボストン美術館

「新たな光を当てる: 日本美術収集品を探る」展示、「日本の陶器: モース・コレクション」展示。

同2月

*ボストン美術館

「移り変わる日本のデザイン: 1900-1940」展示
映画「煙と鏡: 芸者物語」

*Peabody Essex Museum

「芸者 - 化粧のむこうに在るもの」:
規模が従来の10倍に拡充され、昨年6月に再オープンされたPEM(在セーラム)における芸者文化に関する展示。

同3月

*MIT

「ジャパンフォーラム04: 現代の日本建築」: ボストン、ニューヨーク両日本協会ならびにMIT建築学部の共催により、日本建築界の新しい旗手、明日のホープを紹介。

*ボストン美術館

「明治・大正期の葉書展示」: 世界的に著名な化粧品会社を興したEstee Lauder家から寄贈された2万6千点の芸術的価値のある日本の古い葉書を展示。

日本ボストン会

- * 4月 8日(木) ゴルフ懇親会(泉カントリー)
- * 4月 17日(土) お花見(浜離宮庭園)
- * 5月 1日(土) ハイキングの会(多摩丘陵)
- * 6月 歴史の会、小金井・江戸東京たてもの園

今年の予定

- * 7月 音楽の会、ボストン・ポップス
- * 10月 7日(木) ゴルフの会(泉カントリー)
- * 11月 12日(金) 総会
- * 11月 28日(日) 紅葉狩り(新宿御苑)

(グリーリ理事長、挨拶、続き)

同3月(続き)

- *「著者は語るシリーズ」講演:
「日本の組織犯罪」(仮題)
元Newsweek日本支社編集員ヴェリ・カトゥラス氏

同4月

- *ハーバード大学
小津安二郎作品上映週間:記念講演「東京物語」
(S. ソンタグ女史)
- *ニューベッドフォード捕鯨博物館
「ヤンキー捕鯨業者、万次郎、日本の開国」展示
- *コブレ・シアター
「和の心コンサート」 - 鬼太鼓座、バンブー・オーケストラ、津軽三味線(上妻宏光)
- *「ボストン・マラソン」
鬼太鼓座メンバー、ゴール地点での演奏(予定)
- *ハーバード大学
日本の無声映画(活弁士:澤登翠)
- *「相撲ワークショップ」 - 元横綱武蔵丸をゲストに迎え、募金ディナー(企画中)

同5月

- *ボストン美術館
ラッド・スミス記念「日本芸術がらみ」講演会
ルイズ・コート女史、ブルース・アルトシュラー氏による「ノグチ・イサムの人物と作品」
- *「著者は語るシリーズ」講演
ロバート・ホワイティング氏「イチロー論考:日本からの新しい波と野球への影響」
- *ハーバード大学
篠田正浩作品「スパイ・ゾルゲ」上映

同6月

- *JSB 年次総会・ディナー(ゲスト招待、企画中)
- *ボストンの「日本庭園」開所式(予定)

同7月

- *ワング・シアター
平成中村座「歌舞伎・イン・ボストン」
- *ウェルズリー・カレッジ他(予定)
「ホイットフィー ルド・万次郎・草の根がた」

同8月

- *ロードアイランド州ニューポート
「黒船祭り」:神奈川(日米和親)条約締結(1854)から150周年を祝う

観桜会

2004年お花見へのお誘い

今年から藤盛ご夫妻に代わり、お花見の会の幹事を担当いたします。

2004年のお花見は、場所を変え、東京都の特別名勝および特別史跡である「浜離宮恩賜庭園」で開催することにいたしました。徳川將軍家にゆかりの庭園で、戦後、皇室から東京都に下賜された由緒ある緑あふれる史跡で、隠れた桜の名所として知られています。(別項参照)

ここは千鳥が淵の染井吉野より開花が遅れる八重桜が中心ですから、4月17日(土)に開催します。集合時間は繰り上げ午後12時半にいたします。お花見の後の懇親会は芝弥生会館で開催いたします。どうぞお気軽にお出かけ下さい。

参加ご希望の方は、4月13日(火)までに幹事三好(下記)までご連絡下さい。雨天の場合は宴会のみ実施。

記

開催日: 2004年4月17日(土)
お花見の場所: 「浜離宮恩賜庭園」
(管理事務所: ☎03-3541-0200)
交通: JR・営団地下鉄「新橋」駅から徒歩10分
都営大江戸線「汐留」駅から徒歩7分
集合時間: 午後12時半「浜離宮恩賜庭園」入口
宴会開始: 午後2時30分頃開始(予定)
会場: 「芝弥生会館」
港区芝海岸1-10-27
☎03-3434-6841
費用: 約5000円(予定)
申込先: 三好彰

申込み締切り: 2004年4月13日(火)

同8月(続き)

- *JSB 年次ゴルフ・トーナメント(著名人招待予定)

同11月

- *JSB 記念訪日団、東京・京都を訪問。

同12月

- *「能」プログラム(グラント大統領夫妻が観た能・狂言を再演。梅若六郎監修:国際交流基金、文化庁、外務省後援)

歴史を飲もう会

浜離宮庭園見学報告

幸野真士

9月21日、台風15号の関東接近に伴う生憎の天候であったが、予定通り見学を行うことになり、JR新橋駅烏森口に午後1時半に集合。(参加者14名)

篠崎リーダーから今日のコースの簡単な説明を受けた後、新装なった汐留の地下街を通り、電通本社ビルの手前で地上に出て雨の中を浜離宮恩賜庭園に移動。(庭園の入園料は300円、65歳以上は半額、であるが、この日迄、60歳以上は無料というシニアにとっては一寸嬉しいハプニングがあった。)

雨中ではあったが定時14時から、女性ボランティア・ガイドの案内で、見学ツアーを開始した。

まず最初に庭園の沿革の説明があった。

本庭園は4代将軍家綱の弟、甲府宰相 松平綱重(後の6代将軍家宣の父)が江戸初期(1650年代)に浜辺を埋め立てて造った「浜屋敷」に始まり、将軍家の別邸「浜御殿」「浜の庭園」として約200年、明治3年からは明治政府の「浜離宮」として鹿鳴館完成までの間、迎賓施設としてアメリカ大統領グラント将軍、ハワイ皇帝等を迎え、その後皇室の離宮となったが、昭和20年からは下賜を受け「東京都立浜離宮恩賜庭園」となって現在にいたる。

この後、小雨の中をツアー移動開始。

まず最初に将軍お手植えの300年の松。いまだにつややかな緑色の葉が茂っており、その生命力の強さに驚く。

正月には、庭園に沿って建てられた電通本社ビルの屋上から本庭園に鷹を飛ばす鷹狩の行事がある。まさに現代を象徴する近代ビルと歴史のある庭園のコントラストを、来年正月2・3日に見学されては如何とお誘いを受けた。

次第に激しくなる風雨の中、案内路の中の水溜まりを避けながら右往左往、次に大変珍しい鴨場を見学。鴨を餌や囿で狭い水路に誘い出した後、鴨が垂直には飛び上がれない習性を利用してこれを捕らえる。京の公家が最も好んだ遊びの由。園内には新銭座と庚申堂の二つの鴨場がある。

潮入りの池は海水を引き入れ、潮の干満によって池の趣を変えるようになっており、都内で唯一現存する海水の池である。池にはボラ、ハゼ、ウナギ等が棲息している。園内には桜の木も多数植えられており、隠れた花見の名所になっている由。

紅葉狩りの会

幸野幹事と我々夫婦二人は12月7日(日)新宿御苑を散策し、下見を行いました。

都内でもこんなに素晴らしい紅葉がみられるのかとびっくりしました。散策には1時間半程度が適切で、新宿口の銀杏ともみじの紅葉には多くの写真愛好家が集まっていました。赤・黄色など多彩な彩りで是非ご覧になってはとお勧めいたします。

ただ、12月では少しピークを過ぎた感じなので、今年は繰り上げて次の予定を立てています。

場所: 「新宿御苑」

集合日時: 04年11月28日(日)午後2時

集合場所: 新宿御苑 新宿口

会食場所: 新宿ライオン(03-3352-6606)

会費: 約3000円

次号の会報で改めてお知らせしますので、ご予約を願います。(藤盛紀明)

最後に、将軍お上がり場(将軍が江戸城等から来場する際の舟の乗降場所)でツアーを終了。ガイド付きのお陰で、浜離宮のことをよく勉強することが出来大変有意義であった。ガイドさん、雨の中をどうもありがとうございました。

なお期待していたリュウゼツランの花は開花のタイミングが合わず実物を見ることは出来なかったが、受付で写真を見ることが出来た。

将軍お上がり場の近くの発着場で30分余を待って、15時35分発の水上バス(2階建て)で一旦、日の出棧橋を経由して浅草まで、勝鬃橋から始まり佃大橋、中央大橋、永代橋、隅田川大橋、清洲橋、新大橋、両国橋、蔵前橋、厩橋、駒方橋、吾妻橋、と12の橋をくぐりながら、隅田川を遡った。

雨で視界はあまり良くなかったが、橋の名前もちゃんと読め、いろいろな形の橋や周囲の景色(一部想像で)を楽しみながら浅草に到着。

船着場から吾妻橋を渡り、たもとのアサヒビール直営ピアホールで地ビールその他を飲みながらの懇親会は談論風発、大盛会であった。雨に降られはしたが、大変有意義で楽しい見学会であった。

篠崎リーダー、大変ありがとうございました。

次回の「歴史を飲もう会」は気候のよい頃を見て小金井公園内の「江戸・東京たても園」見学を予定している。尚、夏の隅田川・納涼船の企画にご興味があれば検討する。

楽しかったクリスマス会

「うたう会」では、昨年12月25日にクリスマス会を行いました。ゲストを含め8名が集まり、まずは恒例のポットラックで盛り上がりました。

ラザーニャ、ピザ、サーモンマリネにタコのバジルマリネ、アボガドとリンゴのサラダに鶏のから揚げと各種オードブル、これをおいしい赤ワインで乾杯。ご馳走とワインに舌鼓をうちながら、賑やかに歓談しました。

お腹が満たされたところで、クリスマスキャロルの始まり。スタンダードなクリスマスソングから、「ママがサンタにキスした」や「シルバーベル」などのポピュラーな曲まで、日本語や英語で楽しく歌いました。そしてデザート後は一人一人が持ち前の曲を歌うソロやデュエットで、会は最高潮に盛り上がりました。

ピアノの伴奏を弾きながら、真剣に且つ堂々と歌っているメンバーの歌声に聞き惚れてしまいました。

次回は、2月25日に、バレンタインデーとひな祭りにちなんだ曲を歌います。ソロは、どんなラブソングが聞けるのでしょうか。(酒巻則子)

音楽の会

前年に引き続き、ボストン・ポップス・エスプラナード・オーケストラ有志8名のご好意により昨年7月17日、NEC芝クラブでミニ・コンサートを催し、78名と、設立総会以来最大の動員数となりました。弦楽四重奏とフレンチホルン・カルテットによる演奏を身近かに楽しんでいただけたことと思います。

その後の懇親会は寿司やソバの大好きなボストン・ポップスのメンバーに大変喜ばれ、この機会をお互いに満喫する素晴らしい交流の場となりました。

同オーケストラの日本公演に今年も日本側のスポンサーがつくか危ぶまれていましたが、幸いなことに、7月に再び来日することが決まりました。

芝クラブでの演奏は他に迷惑がかかるとのクレームがありました。酒井幹事のご尽力により今年も使えることになりました。

「音楽の会」の活動は最近、ボストン・ポップスによる演奏会しかありませんが、何か良い提案がメンバーからあれば歓迎です。(関直彦)

ホームページ

日本ボストン会のホームページは、会の設立趣旨や活動内容をご紹介して新たな入会者を募り、また、会員の皆様に催し物の予定などをお知らせして活動にお誘いすることを目的に、2002年10月に公開しました。これまでに利用回数1万5千回を記録しています。

ホームページは、直近のトピックや会全体の活動を一望できるトップページを中心に、各同好会のページや各種ご案内のページなどで構成されています。コンテンツは会員の皆様から提供していただく手記や写真が中心で、会の日常的な活動の様子をご覧いただけるものになっています。運営は幹事会を中心に行われており、掲載情報は月2~3回のペースで更新されています。

時々トップページをチェックしてみてください。
(<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~boston/>)そして、「興味のある案内がでていけるけれど、その詳細は?前回の時の様子はどうだったのだろう?」とページを辿ってみてください。(佐藤文則)

札幌から新年のご挨拶

*ボストン「氷の江戸城」制作プロジェクトは、新年を迎えるファーストナイトボストンのオープニングを飾る一大イベントでした。Japan Society of Boston 創立100周年記念事業の一つとして、北海道・マサチューセッツ協会が共同制作したものです。この年末年始はボストンにおりましたので、ご挨拶がおそくなりました。

*今年も、歴史発見の旅・国際交流セミナー、高校生の短期交換留学・音楽交流プログラムなど、古いものに学ぶ確かな歴史認識と将来を見通した事業を考えていきたいと思えます。

*4月には、昨年イラク戦争のため中止されたコンコードカーライル高校(97名)がいよいよ来札、札幌白石高校吹奏楽部との合同演奏会(4月16日、Kitara)が実現します。6月には、ノーブルズ高校(10名)が約4週間の短期留学プログラム(札幌国際情報高校、七飯高校他)で来札します。

*明05年は姉妹提携15周年です。このところ国際交流の仕事中心の生活ですが、今年もどうぞ宜しくお願いいたします。(中垣正史、HOMAS)

美術の会

第18回ゴルフの会

マリー・ローランサン
回顧展鑑賞会

三好 彰

美術の会で、9月3日、東京都庭園美術館で開催中のマリー・ローランサン回顧展を鑑賞した。参加メンバーは酒井ご夫妻（美術の会幹事）、山崎ご夫妻、俣野夫人、佐藤夫人（花子様）、篠崎さん、三好（二人）であった。

会場の東京都庭園美術館の詳しい説明は同館のホームページを見ていただくのがよい。フランス人建築家の設計になるもので、大正末期から昭和初めにかけて一世を風靡したアール・デコ様式になっている。建物そのものが芸術品であるゆえに、この中に展示される美術品は自ずと高い完成度が要求される。

最初に、館内で開かれたサクソホンのデュオとピアノを交えたトリオによる室内楽を鑑賞した。このような構成での音楽に明るくないが、選曲の良さとともに若い演奏家の熱気とで満席の会場は吸い込まれるように音の世界に溶け込んだ。

さてマリー・ローランサンは丁度 120年前に生まれたが、母は未婚であった。同じような境遇のドイツ人と結婚するが、独仏を舞台とする第一次大戦が始まって逃亡生活を余儀なくされるが、追って離婚するなど数奇な人生を歩んだ。それゆえにか、彼女の作品は現実の厳しさとうらはらに幻想的で叙情的な世界を作りだしている。描かれている夢の世界の中に住むような女性には、どこか驕りも感じられて、そこに彼女のメッセージが隠されているようでもあった。

彼女の生きた時代は絵画が変革を繰り返したわけだが、その中に独自の画風を作り上げてそれを貫き通した芯の強さが彼女の苦難な人生を支えたのだろう。自画像が何点かあって、その時点の写真も展示されていたが、絵の方がずっと細めに見えたのは気のせいであろうか。

内外から集められた70点余の油絵のほか、水彩画、デッサン、スケッチなどもあって、マリー・ローランサン半世紀に及ぶ活動を知るのにこの上ない良い機会であった。この機会にボストン美術館の所蔵品を調べたら、彼女の作品は2点しかなく、常設でないようだ。

絵の鑑賞を終えて美術館につらなる庭園を散策した。日本庭園から洋式の庭に出るとバラが咲いていた。今年は冷夏であったが、この日の最高気温は例年より高く残暑がひととき厳しかった。

秋期コンペ優勝

吉田 久夫

秋のコンペで図らずも優勝させて頂きました。偶々皆さんのスコアが伸びなかったことと、ハンディキャップに助けられたことだと思います。

スコアそのものは恥ずかしいもので、恐らくこの優勝は、最初にして最後になるのではないかとと思っています。

前回の優勝者が、“ゴルフはクラブですぞ”と仰せられたと記憶しますが、それはレベルの高い人のことだろうと思います。

私の場合、二・三度クラブを買い換えたことがありますが、結果は全く変わり映えしないものでした。

唯、下手なりに向上心は持ち合わせおきまして、（中々向上しませんが）時々練習場へは通います。

“努力する者は報いられる”との或る偉人の言葉を信じて、練習場での僅かな努力（？）が報いられたものかと、勝手に納得している様な次第です。

何はともあれ、天候に恵まれた日和に、新鮮な空気を吸いながらプレイするのは、楽しくもあり、また喜びでもあります。

和気藹々の雰囲気の中で、しかも素晴らしいコースでプレイさせて頂けるのが何よりです。

健康でその様なゴルフが出来るという幸せであり、ありがたいことだと思っています。

再度優勝する様な厚かましいことは考えず、唯ひたすらこの会の益々の発展を祈って止みません。

なお、10月9日の泉カントリー・クラブにおけるコンペ参加者は17名、入賞者は次の通りです。

- 1位：ネット78（グロス102）吉田久夫
- 2位：ネット78（グロス114）磯崎暁子
- 3位：ネット80（グロス100）野瀬芳宏
- BB：ネット94（グロス111）當間きよみ
- BG：ネット85（グロス90）伊藤道生

さて近くのレストランでイタリア料理を楽しんでいると急に雷鳴が響き、篠突く雨となった。困った、帰れないと案じていたら、小一時間でピタリと止んだ。外に出ると気温が下がって夜風が心地よかった。ところが落雷で電車が止まってしまう一部の方は難儀されたようだ。そういう場合こそマリー・ローランサンのメルヘンの世界に思いをはせると心とむことだろう。

なお美術館で偶然、幸野夫人にお目にかかった。お元気になられたご様子に一同ほっとした。

クルーズの会

クリスタル・セレニティー 日本初寄航乗船記

久米 生光

昨年7月、英国の古い港町サザンプトンで一隻の新造客船の命名式が執り行われお招きにあずかった。日本郵船(株)の米国現地法人クリスタル・クルーズ社が仏国サン・ナゼールのアトランティック造船所で建造した超豪華客船クリスタル・セレニティー*で、命名者は女優ジュリー・アンドリュース。同社は安全性とレベルの高いサービスが受けて米国市場で成功し、これで3隻目の所有となる。(※やすらぎ)

この船は今年1月ロサンゼルスより西回りの世界クルーズに出発。ハワイ、アジア、インド洋を経てアフリカの南端ケープ・タウン、大西洋の孤島セント・ヘレナ、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ、カリブ海を経由、ニューヨークまで106日間の航海である。

部分乗船も設定されているが最も短い区間で22日間でおいそれと参加する訳にもいかず、特別にグアムより横浜まで11日間のお試しクルーズを組んでもらい、同好の志に呼びかけたら35名の参加者があった。

うら若き「海の貴婦人」との再会

2月4日、空路グアムへ。ホテルで一泊し翌5日午前バスで港に向かう。出港は午後5時だが取り立てて見るべき物も無い街にいるよりと、昼食時からのアーリー・チェックインを提供してもらった。さて港には定時に着いたものの、ここは米軍基地の島、船に積む資材の検問にえらく手間取っている。我々乗船客のセイフティー・チェックも厳重を極め、一行がクリアした時は既に2時を過ぎていた。

こういった折りの船側の対応は気が利いている。プールサイドのリド・レストランに遅めランチが用意されており、新入り船客の身体と心を慰める。

さて次は手荷物の整理をしなければ。今回は少し奮発し全員プライベート・ベランダ付きの上級客室。小生のは広さ25平方呎、大型ベッドに応接セット、シャワー&タブ付きバスルームにツインの洗面台。テレビ、冷蔵庫、ホームバー、セイフティー・ボックス等完備。

ワードローブも大きくジャケット、シャツ類など掛けるべきものを全部掛けても50以上あるコートハンガーはかなり余る。小物類は引出しに納め、5

足の靴も所定の棚に整理し、空になったスーツケースをベッドの下に入れて洋上生活の始まり。ここが10日間の自宅となる。

「海の貴婦人」の紹介を少し

クリスタル・セレニティー、7万トンで船籍はバハマ、全長250呎、全幅32.2呎。船客に供用されているフロアーは9層。約540ある船室はその大きさや位置により7段階の価格帯に分かれる。クリスタル・pentハウスと呼ばれる最上級の広さは125平方呎、よく訓練されたパトラーが付く。全体のサービスは客室カテゴリーにかかわらず均一のワン・クラス制。乗客定員1,080名に対して乗務員が655名。出身国籍は40ヶ国以上、一番多いのがフィリピン人、ヨーロッパからも各域に及び小生の部屋付きスチュワーデスはアイスランド人だった。船全体のウリはノルウェー色となっており、(欧米では同国の海運、クルーズ・ビジネスに信頼が高く、この船の船長もノルウェー人である)、日本人乗務員は7人で、船主が日本の会社にしては少ない気がする。

クリスタル・セレニティーは長い汽笛を残し定刻ぴったりグアムを出港する。途中、サイパン島にほんの少し立ち寄り、日本での最初の寄航地となる広島を経て横浜まで船中9泊の航海が始まった。

船内探訪をしましょうと数人のグループに分かれ行動を開始。この大きさはハンパじゃない。一直線に伸びる客室フロアーの廊下は優に2百呎を超え、先の方はかすんでいる。5百人が会食できるメイン・レストランは豪華そのもの、磨き上げられたグラスや食器に晩餐が楽しみ。ギャラクシー・ラウンジと名付けられたきらびやかな劇場を見たらパリのナイトクラブを思いだす。

屋上階のウォーター・エリア、大小2つのプールにジャグジーが2つ、一部スライディング・ルーフ付き。船尾13階はとりわけ自慢の美容・健康フロアー。最新設備のエステ、サウナ、ジムが配置され、専門のスタッフが待ち受ける。小顔で手足の長い北欧系のモデルのようなフロント嬢に出迎えられれば、それだけでも美しくなれますな。

クリスタル・セレンティー (続き)

文化教室も各種用意され、人気はヨガ、キーボード、パソコン、ブリッジなど。シニア・ソムリエがつき、レクチャーし、9種類の上級ワインが用意され、料理との相性を確かめる個室レストランがあるのはこの船のみ。

洋上生活3日目位になってやっと船のあらましが分かり、パブリック・ルームより自室に何とか迷わずに帰れ、居心地のよいコーナーが見つかる。

一日の始めは朝日に輝く海原の中でのジョギングや散歩、プロムナード・デッキを一周すれば約5百歩、午後のティー・タイムは展望ラウンジで。好みのお茶が運ばれてくる間に、生演奏のモーツァルトを聴くのは一寸した至福のとき。夕べの楽しみはダイニングにあり、この船、シェフだけで110名乗せている。美空間で良き仲間と卓を囲むのは幾つになっても楽しきこと。メイン・ダイニングの他にもイタリア料理と日本料理・寿司バーをテーマにしたサブレストランが複数あり、気分によって船内食べ歩きが出来る。ディナーの後はショー、カジノ、ナイトクラブと夜はまだ若い。

船は小さな運命共同体、パッセンジャー、乗組員を合わせた実に多様な人が集まり、世界に窓が開かれていて、陸に無い交流が広がる。

仲良くなった中国人ファミリー、総勢11人で乗っていた。祖母はハワイから、子供たちはシドニー、バンクーバー、そして孫の一人は東海岸からという

典型的な華人家族、こうして年一回集まってクルーズするのが今一番の楽しみという。

朝食ビュッフェのおり「ご一緒していいかしら」と次女の奥方。お付きのウェイターがトレイの料理をテーブルに並べ、椅子を引きナフキンをかけて下がる。

昨夜会わなかったが何をしてたなどの挨拶に始まって「実は長女のこと気がかりで...金融関係で働き仕事も出来て実入りも悪くない。親の口から言うのも何だが、そんなに不器量でもないと思う...でもちょっと嫁にいかん。彼女来月41歳、こんな時日本の親はどうします?」。

「どうすると言われても...実は我が家でも年こそ多少違って同じような状況で」、「あつ来た、来た」。小声で挨拶をし、卓に着いたお嬢さん、可愛くってえらく若く見える、それに利発そう。お嬢さんが席を外した時、「あの子って女の魅力に欠くのかしら?」。大海に身を委ねて人はおのずと素直になれるのかな。

ご多分にもれず、近年のクルーズ・ビジネスも米国に集中で、規模も日本の百倍余とあれば、この米国型クルーズの魅力はどう表すのか、もどかしさを覚える。彼らの「人生の享受を人生の目的とする」ライフスタイルの具現といたらよいのだろうか。

東の間でも極上の洋上リゾートを覗いた別次元の価値観に触れ、ここ当分元気に過ごせるようだ。



2004年2月14日、横浜港に初入港したクリスタル・セレンティー (筆者写す)

美術愛好会

フェノロサ夫人メアリの 観た鈴木春信の浮世絵 (1725~1770)

酒井典子

(前受) 今年1月、名古屋ボストン美術館長山口静一先生よりフェノロサ夫人メアリの「鈴木春信」論を送って下さった(別項参照)。非常に興味深く読ませていただくと共に春信のどの作品がどの様にメアリの心に響いたのかみました。

メアリは春信の作品を単純化された構成の中に流れる空気は鑑賞者の心を甘く透き通った気分させる。選び抜かれた色の数々はやわらかく、心地良く、魔術師的腕の冴えとみている。

Boston美術館所蔵の春信の作品をみてみましょう。

メアリの観た「見立孟宗」(1765 頃)、Parody of Twenty-four Paragons of Filial Piety は冬に筍を食べたいと言う病気の母の為に戸外の竹林で天に祈ると、地面から筍が生えてきてと言う話を、春信は当世風の女性に見立てた作品である。メアリは着物を着た娘が足先で囲み雪を取り除き、筍を掘り起こすのは、それは大変な仕事と感じる。しかし、それにもまして流れる空気は優しく、描かれた娘はこの世の人と思われぬほど美しいと述べる。またメアリは筍はどんな食物かとも細かく説明している。春信の色のひびき合い、そしてやさしく曲線を描く筆の動きにメアリの喜び、満足したことが窺える。

1767, 68 年頃の春信の作品「秋の風」Two Girls Walking on a Day は風に吹かれる娘達(*1)はそれぞれ笠をおさえている。左の娘は裾を気にしている。右の娘は振袖と帯が風に舞うのに戸惑いを見せている。風のいたずらが生んだ面白い画面構成をメアリは細かく述べるとともに、この作品は春信の傑作と評している。

メアリは18世紀から20世紀にかけての浮世絵は世界美術史上の中でも、類のない芸術作品とみている。人間社会の営み、例えば宗教、愛、日々の生活をテーマにした作品を通して、あらゆることを想像することができるのではないだろうかとメアリは述べている。

(*1)江戸中期を代表する美女笠森お仙、と言われた水茶屋の娘と浅草銀杏娘のお藤



「見立孟宗」(1765 頃)



「秋の風」(1767, 68 年頃)

美術愛好会

補遺 フェノロサ夫人メアリのこと

山口 静一

フェノロサ夫人メアリの春信論は、1896年1月ニューヨーク開催の浮世絵展「Masters of Ukiyoe」に展示された春信についての感想です。解説目録の筆者はフェノロサで、前年12月に二人は再婚しています。

メアリは1865年アラバマ州出身でフェノロサより12歳年少。美貌の文学少女で、18歳のとき多くの求婚者からルドルフ・チェスターを選んで結婚、一子アランを生みますがやがて夫と死別します。求婚中のレドヤード・スコットは失恋して来日、鹿児島造士館中学(現鹿児島大学)の英語教師になっていましたが、メアリが未亡人になったことを聞いて日本から再度求婚の手紙を出します。メアリはアランを連れて来日、結婚しますが、結婚生活がうまく行かず、独りアラバマに帰って娘アーウィンを生みます。レドヤードもあとを追ってきましたが、メアリは子供たちを連れて、折から募集していたボストン美術館にフェノロサの助手として勤めることになりました。レドヤードはアーウィンを取り戻すために訴訟をおこして勝訴、一方フェノロサもシカゴでの不倫の疑いでリジー夫人から訴えられて敗訴。言わば負け犬同志となってメアリとフェノロサが夫婦になったわけです。

二人は再び日本にきますが、リジーへの慰謝料やリジーが引き取った娘の養育費調達のため、生活は困難をきわめました。しかしメアリは詩人、小説家として名声を挙げます。

大分古い資料ですがアラバマ州モビール在住の小生の友人コールドウエル・ディレーニのメアリ伝がありますので同封します。郷土自慢のところもありますが、メアリの小説が映画化され、早川雪州が出演したなどおもしろい話が出ています。

「ボストンへようこそ」改定第2版入着

ご好評をいただいているガイド・ブックの改定版が入りました。ホーム・ページを見てお申し込み下さい。

幹事会記録

日時: 2003年12月9日(火) 午後6時半~9時

場所: NEC三田ハウス

出席者: 14名

*北海道・マチュウキョ協会宛18,800円送金の報告。

(氷彫刻家ボストン派遣支援金、総会時募金)

*美術の会: 名古屋ボストン美術館の欄をHPに掲載要請し、トップページに特別展、常設展展示替等切り替え時に一定期間掲載をすること決定。

*音楽の会: 来日 04年の来日は未定。

*ゴルフの会: 04年4月8日(木) 泉カントリー。

*ハイキングの会: 次回は未定(3月ごろ?)

*お花見の会: 浜離宮庭園、04年4月17日に変更。

*紅葉狩りの会: 新宿御苑、下見の会を12月7日。

*うたう会: クリスマス会、12月24日、酒巻氏宅。

*「ボストンへようこそ」改訂版受領の報告。

*ハイキングと山の会: 12月14日の計画は延期。

*会費徴収の件(井口会長提案): 現在のところ、その必要を感じないので徴収しない。ボストン日本協会への寄付は、お話があればファンドレイジングをして、対応することにした。

*会報発行: 04年3月上旬を予定。

*04年の幹事会開催予定:

2月23日(月)、6月10日(木)、10月1日(金)

11月28日(日)紅葉狩りと一緒?

日時: 2004年2月23日(月) 午後6時半~9時

場所: 新宿サミットクラブ

出席者: 15人

*新入会員: 高橋司氏、高西淳夫氏。

*お花見の会: 4月17日(土) 午後12時半、浜離宮庭園入口に集合し開催。(別項参照)。

*音楽の会: 来日 04年7月来日決定、会場はNECの三田ハウス利用が可能になった旨、報告。

*ゴルフの会: 10月9日結果報告、次回は4月8日(木)、次々回10月7日(木)。(別項参照)

*ハイキングの会: 次回多摩丘陵(5月) 計画中。

*美術の会: 次回未定、刀剣も対象とするか検討。

*紅葉狩りの会: 11月28日開催。(別項参照)

*ボストン日本人会: 会長に高橋一彦氏が就任。

*歴史を飲もう会: 次回6月予定(別項参照)

*クルーズの会: 新造客船 クリスル・セニティに久米生光氏がグアム 横浜を乗船された。(別項参照)

*ホームページ: 1万5千回利用報告。(別項参照)

*うたう会: 2月25日、酒巻氏宅。(別項参照)

*会報発行: 3月12日、次回締切8月末、10月発行。

*幹事会予定: 6月10日(火)、10月1日(金)。

日本ボストン会2003年度総会報告

日時2003年11月14日(金)午後6時半～9時

場所NEC三田ハウス芝クラブ

議事 会長挨拶、名古屋美術館の現状紹介、新会員紹介、会計報告、活動報告、参加者挨拶。

出席者42名

*遠隔地参加者紹介:

山口静一名古屋ボストン美術館館長

吉野耕一先生(当会初代会長、ハーバード大教授)

*参加者紹介:

岩下邦雄氏、谷口裕子氏、小野田勝洋氏、

渡部雄助氏、中谷純氏、カール ケイ氏。

日本ボストン会2003年度総会は、近藤宣之副会長の司会で開会いたしました。

冒頭、井口会長より高木政晃元会長ご夫妻をはじめボストンに強いご関心を持たれる会員の皆様とお会いするのは楽しいことであり、同好会活動が盛んに行われていることは悦ばしく、親睦の交わりが発展することを希望するとのご挨拶を戴きました。

そして、運営上の問題として、ボストンのJapan Societyが今年度に創立100年記念行事を計画していることに関連して、京都ボストン交流の会が年会費3千円を徴収して運営していることもあり、この会も会費徴収を幹事会で検討して欲しい旨のご提案がありました。この他会員の増加を図るために、宮内庁の川島裕さんにお話したところ、入会のご承諾を戴いた旨のご報告を戴きました。

乾杯は茂木賢三郎前会長をお願いいたしました。

この後、ゲストとしてご出席をいただいた埼玉大学名誉教授で、名古屋ボストン美術館館長を務めておられる山口静一先生から、ボストン美術館における日本の美術品収集に功績のあったフェノロサについてのお話を伺いました。

フェノロサ研究の第一人者である山口先生によれば、フェノロサは日本から帰国後の明治41年、旅行中にロンドンにて客死、ロンドンのハイゲートに葬られた。このことを日本で伝え聞いた有賀長雄はメアリ夫人に、故人はかねて三井寺の梵鐘の故事を引き、骨を三井寺に葬られる希望持っていたことを知らせたところ、遺骨は火葬にされて、三井寺に送られて葬られたことを披露されました。同じ時期に日本で行動を共にしたビゲローは大正15年に没し、天台宗の法衣を纏ってマサチューセッツ州オーバンで埋葬されたが、後に分骨されて三井寺に葬られた話も合わせて紹介されました。

更に、名古屋ボストン美術館は11月22日からはボストン美術館が所蔵するドイツ ルネッサンス版画の優れた芸術家であったアルブレヒト・デューラー(1471-1528)の版画展を開催するというこれからの美術館活動の近況を紹介されたあとで、是非この美術展を鑑賞して欲しいと出席希望者に招待券を提供して下さいました。

しばし歓談のあと関尚子さんのバイオリン伴奏で酒巻則子さんの歌唱を三曲聞かせていただきました。

①バッハの「カンタータ68番」。

②モーツァルト「フィガロの結婚」からスザンナのアリア。

③プッチーニ「ジャンニ・スキッキ」からアリア「わたしの優しいおとうさん」。

午後8時からは総会に入り、まず新会員の紹介があり、その後各同好会からの活動報告を伺いました。

*「うたう会」(酒井一郎氏)

*「ハイキングの会」(土居嘉子氏・幸野真士氏)

*「歴史を飲もう会」(篠崎史郎氏)

*「お花見の会」(三好 彰氏)

*「紅葉狩りの会」(藤盛紀明氏)

*「謡曲の会」(創設の希望)(生田英機氏)

*「山の会」(山崎恒氏・當間秀雄氏)

*「いけばなの会」(佐藤花子氏)

*「音楽の会」(佐々木浩二氏・関直彦氏)

*「ボストン・ガイドブック」頒布報告(近藤百合子氏)

*「ホームページ」(佐藤文則氏)

*「会計報告」(棚橋征一氏)(末尾注参照)

*「ボストン日本協会100年記念行事、2004年4年春までの行事予定」(棚橋征一氏)

*「水彫刻家のボストン派遣への支援要請」(北海道マサチューセッツ協会)(席上、司会者から出席者に寄付支援を要請した)。

*「ゴルフの会」(近藤宣之氏・當間秀雄氏)

*「新入会員の報告」(土居嘉子氏)

岩下邦雄氏・山口静一氏・中谷純氏、3人。

*「会報」1月末締切り、3月中・下旬発行。

総会の最後で高木政晃元会長から最近の所見、藤崎博也元会長から名古屋ボストン美術館に対する支援がボストン側からも示される希望を述べられました。山田敬蔵氏からは来年もボストン・マラソンに参加とのお話があり、総会を終了いたしました。

(注)

収入¥553,307 支出¥481,954収支差 ¥71,353
資産合計¥1,084,332 負債正味財産合計¥1,084,332